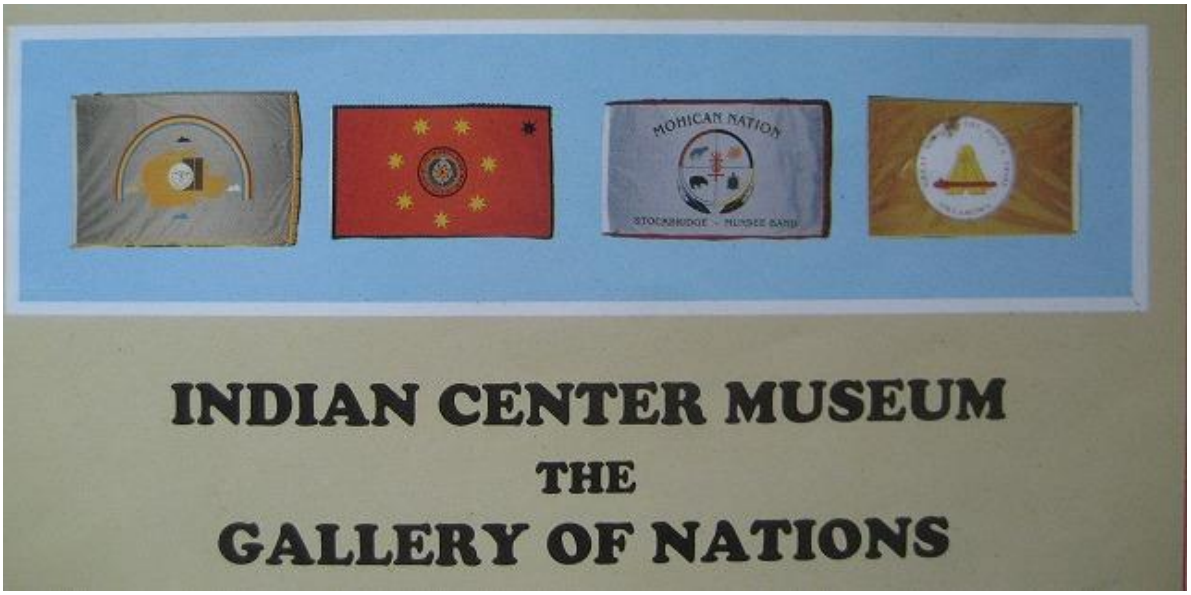


A fascinating look at Native American tribal flags and tribal histories.

訳　鈴木　誠二

2011.10.14

GALLERY OF NATIONS

剛健　　伝統　　誇り　　統一

これらの旗を見ながら

★ インディアンの人たちの強さを感じ取ってください。

★ 何世代もこの地に根付いた伝統を生活のなかで実践してください。

★ 原住民アメリカ人が彼等の人々、そして、部族がゆえに保っていた誇りというものを吸収してください。

★ アメリカ合衆国の辺境の地のなかで彼等の統治権の象徴を掲げている 500 以上もの種族の大同団結を理解してください。

“Gallery of　Nations”は、ここを訪れる人々が、北アメリカの原住民の人たちの強さと、伝統、誇り、そして、統治を理解するのを手助けするために創設されました。

それぞれの旗は、合衆国政府により認定され、そして、その辺境の地にみられる原住民アメリカ人地域の統治を表しています。

その旗は、また、こうした統治地域を築き上げている人達をも表しています。希望や将来のためになされた決意の交じり合った過去の涙や喜びを感ずるために、黙して、この前に立ってください。畏敬の念を持って眺め、そして、“私は、アメリカ合衆国の国民であることに誇りを持っているし、私は、私の種族の統治地域にいることに誇りを持っている。そして、私が原住民アメリカ人で在ることに誇りを持っている。”と言っている数百万人者人たちの声に耳をそばだててみてください。

****

“ Gallery of Nations”は、Indian Center Museum における主要な常設の展示です。私たちは、合衆国で正式に認識されている部族の旗を収集し、これを展示しています。こうした旗は、10,000　sq.ft. の　‘Kiva’ Ceremonial Hall に展示されています。これは、アメリカ合衆国でも、この類の展示物としては最初のものです。ここに展示されている旗はすべて寄贈によるものです。そうした旗の多くは、部族の議会から贈られてきました。なかには、世襲のために、あるいは、その愛好者の記憶のなかで、個人的に寄贈されたものもあります．展示物のなかには、彼等の歴史や文化に関する譲歩を与えてくれる、それぞれの部族の標識も含まれています 。

現在では、合衆国のなかで、原住民アメリカ人部族として 549 もの部族が認められています。こうしたそれぞれの部族は、彼等の市民裁判所、裁判権、そして、権利を持った、統治地域として認められています。旗は、歴史と、文化と、そして、こうした社会の将来を象徴しています；我が国の発展に絶大なる影響を与えた社会なのです。

完成すると、この“Gallery of Nations”は、辺境の地にある膨大な数の原住民アメリカ人部族を、そして、そのそれぞれの部族の人たちが個人の威厳のなかに持っている誇りというものを紹介することになるでしょう。

****

ここに、旗を寄贈していただいた方々に、心より感謝の意を表します。

The Gallery of Nations was funded by a grant from the Travel and Tourism Development Division of the Kansas Department of Commerce and Housing and Target Stores.　Our sincere gratitude is extended to the State of Kansas and Target stores.

San Carlos Apache

San Carlos Apache 族は、西部アパッチ族 5 部族のうちの一つの部族です。彼等は 1200 年ころに北からやってきました。そして、東部アリゾナに定住するようになったのです。西部アパッチ族は一人の酋長に率いられて小さな家族単位で生活をしていました。彼等の住まいは暖をとるために、柳、もしくは、ポプラの木でできた窓枠のある、かやぶきの丸屋根の小屋でした。家系は母方の血筋を通して成り立っていました。この一つの血族のなかでの結婚は許されていなかったのです。儀礼にのっとった、社会的な生活がこのアパッチ族には重要だったのです。その一つの出来事は、母系集団の中に少女を迎え入れるための、四日日間にわたる歓迎儀式でした。その少女の家族がスポンサーとなって、儀式、歌、祝宴、踊りなどの催しものを開いたのです。この儀式は今でも執り行われています。西部アパッチ族は、穀物を栽培し、狩りをし、そして、野生の植物なども採取しています。彼等の食べ物は、主としてトウモロコシ、豆、カボチャ、ナッツ、ベリー、えんどう豆、アガーベ、七面鳥、エルク、アンテロープ、さらには、山猫などです。アパッチ族の手工芸品には幾何学文様の緻密に編まれたカゴや、黒、もしくは、暗い灰色をした土器などがあります。**部族旗について：** San Carlos Apache 族の旗に描かれている図柄は、山と牛と鉱山道具で、こうしたものは、この部族の生活様式の中では非常に重要なものなのです。

Torres-Martinez Desert Band of Cahuilla

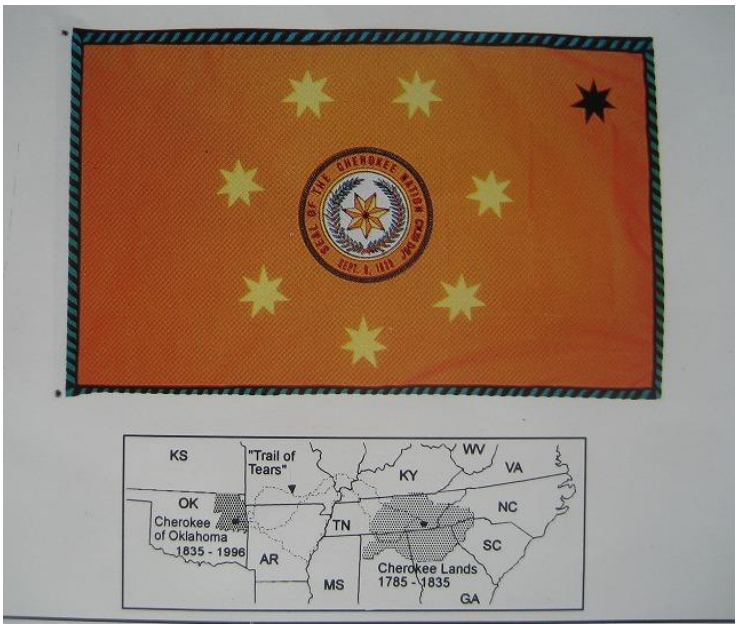
Torres-Martinez 保護居留地は、カリフォルニア峡谷に位置している前期 Toro の部落と Martinez インディアン局に由来しています。Cahuilla 族は温厚な人たちでした。彼等は川のほとりに、小枝を丸屋根型に覆い、あるいは、縦にカヤを葺いた小屋を作り住んで居ました。彼等の村には、果実などの穀倉、発汗小屋、そして、治療をしたり、ダンスや、そのほかの儀式を執り行うために使用される儀式用の小屋がありました。彼等は、砂漠の民で、水は非常に少なかったので、Desert Cahuilla 族は、手製で大きな井戸を掘る技術を開発していました。平らに横にひろがったこうした水路は、ときに 100 フィートも広がっていました。**部族旗について：**この旗の模様は、Ruby Modesto によりデザインされたもので、“Gruffum”とだけで知られている作者によって描かれたものです。鹿は、かっては、この Torres-Martinez 保護居留区ではどこでも見られた光景です。月の光の中で、ヤシに囲まれて鹿が水を飲みに来たのでしょう。間違いなく Torres-Martinez Desert Cahuilla の先祖たちによって描かれていたこの美しい光景は、彼等の文化の象徴となっています。MAU-WAL-MAH SU-KUTT MENXIL というのは、Cahuilla の言葉で“ヤシに囲まれた、鹿と月”を意味しています。

Eastern Band of Cherokee

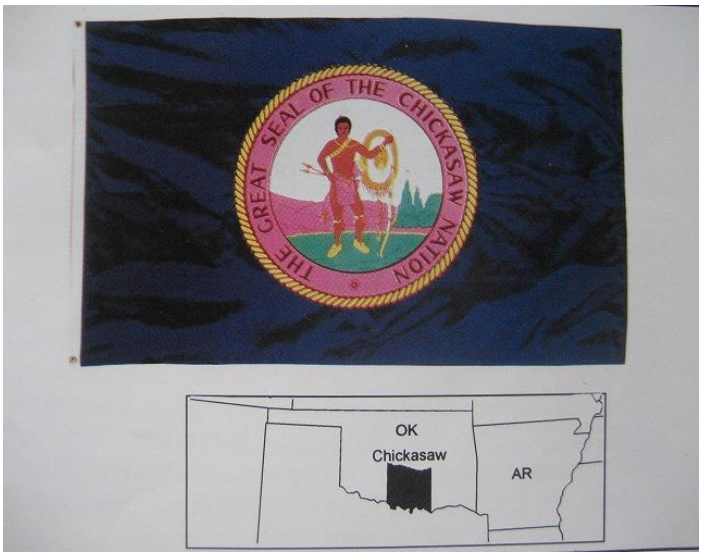
Cherokee 族は、かなり早い時代からアパラチア山脈の南東に位置する地域に定住していました。部族には酋長がいましたが、政の重要なことは、長老たちの会議によってきめられていました。家系は母方の血筋を通して構成されていて、女性たちは男性とともに極めて重要な地位を持っていました。彼等が最初にヨーロッパ人と接触したのは 1540 年で、1835 年に、Desoto に率いられた彼の探検隊が、捕虜となった Cherokee 族の女とともに彼等の土地にやってきたときに、Cherokee 族は、彼らの土地を連邦政府に割譲したのです。非常たくさんの部族の者が、オクラホマ(インディアン強制居住区)に移り住んでいった一方で、一部の者は彼等のもとの居住地に残り、これに抵抗しました。1925 年になり、North Carolina の彼等の故郷の地に極僅かの土地をみとめられたのです。Cherokee 族は、書き言葉をもつ最初の North American Native nation としてその名を知られています。

部族旗について： 旗は、1839 年に採用されたもので、Cherokee Nation の公式なシールを表しています。七角形の星は、Cherokee 族の七つの旧血族集団、Long Hair, Wolf, Bird, Paint, Blue, Wild Potato 並びに、Deer の血族を表しています。境目のところに、原住民の書体で書かれた“Cherokee Nation”という二つの言葉を見ることができます。樫の葉の輪は、Cherokee Nation の中心地で絶やされることなく燃え続けている神聖なる火にくべられる木を象徴しています。

Cherokee of Oklahoma



この Cherokee 族は、1540 年代にヨーロッパ人が最初に接触した当時は、南西部に住んで居たインディアンたちのなかでも最大の部族でした。彼等は文化的な 5 つの部族のうちの一つです。彼等の経済的な基盤は、農業と狩猟です。有名な Cherokee の男である Sequoya が、膨大な記録に残る歴史を残すことを可能にした、最初の原住民アメリカ人によるアルファベットを築きあげました。1830 年代の初頭に、Andrew Jackson 大統領は、この Cherokee 族をインディアン強制居留地区に無理やりに移動させました。1835 年に調印された New Echota 協約は、彼らの土地を連邦政府のものとなることを効率的に進めたのです。多くの Cherokee 族の者がここを去りましたが、中にはたくさんの者が、山の中に隠れたのです。たくさんの者が抵抗し、そして、強制的に冬の死の境遇に追いやられました。この行軍の間、Cherokee 族の 1/4 の者が寒さと飢えのために亡くなったのです。この悲劇が“涙の行軍”として知られるようになりました。**部族旗について：** 公式な Cherokee 族の紋章が 1839 年に採用されました。ここに書かれた Cherokee は、“Cherokee Nation”と訳されています。樫の木の葉の輪は、人々の囲炉裏の中でたかれる神聖なる火に燃やされる木を象徴しています。中心にある七角形の星と外側の黄色の七つの星は、最初の血族集団を表しています。外れた形で描かれている八番目の黒い星は、“涙の行軍”の間に亡くなった Cherokee 族の人たちを表現しています。



Chickasaw

Chickasaw 族は、伝統的に偉大なる戦闘集団の部族で、ミシシッピーの北東に居住していた狩猟部族でした。彼等は、“五つの文化的な部族”と呼ばれた部族の一つです。フランスと戦うイギリス側に立ち、長い間、武器を取って戦っていました。人口が少なくなり、そして、狩猟の獲物が消えると彼等は、農業に従事するようになりました。1801 年から 1832 年の間に、Chickasaw 族は、彼らの土地を離れる協定にサインをし、インディアンの強制居留区に移り住んでゆきました。Chickasaw Nation は、1856 年に部族の統治機関として再構築されました。インディアン強制居留区の Tishomingo で、今日、彼等は、Oklahoma の Ardmore に本社を持つ高度に工業化された部族となっています。**部族旗について：** 中央に描かれているのは、最後となった偉大な Chickasaw War Chief の Tishomingo です。弓矢は、二つの Chickasaw の分族を表しています：森に住む戦士たちの部族と村に住む人たちです。素晴らしい狩猟の技量ということで、矢筒があり、ヒッコリーでできた弓は、自分たちの仲間のために食料を確保する戦士の能力を表しています。四つの頭の羽は、方角を意味しています。白鳥の羽で作られた飾り襷は、偉大なる戦士に付ける伝統的な飾りです。ひざ当ては、これを付けている人に俊足と持久力をもたらす Chickasaw に伝わるまじないの表現です。後方にみえる川はミシシッピー川で、これは、かっての Chickasaw の“故郷ではない”ことを意味しています。

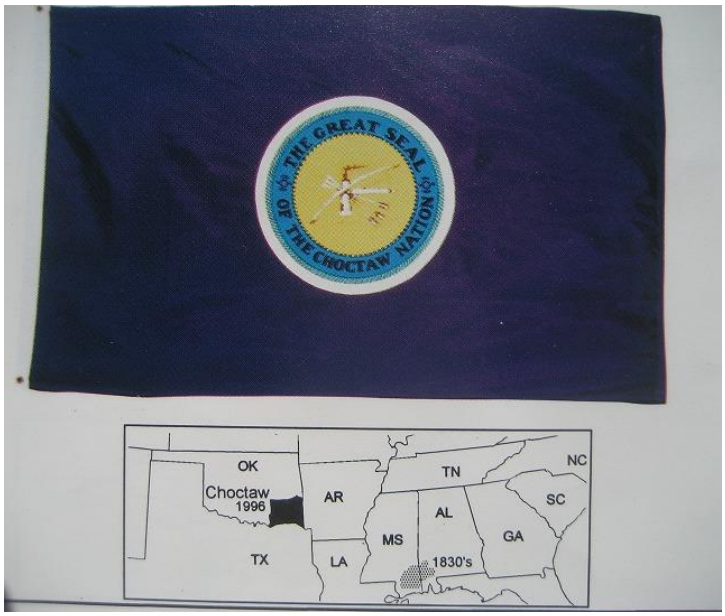
Lac du Flambeau Band Of Chippewa

Lac du Flambeau Band Of Chippewa 族の人たちは、彼等がもともといた森の故郷、これは、ヒューロン湖や、スペリオル湖の北ですが、ここからあまり離れて移動はしていませんでした。Chippewa 族は、Iroquois 族と関係があり、 Ojibwe 族(あるいは、Ojibwa 族) などとも呼ばれていました。彼ら自身が自分たちの名前は、Anishinabe 族、これは、“最初の人々”という意味ですが、このように呼んでいました。漁業と狩猟が Chippewa 族の人たちの食料の糧でした。彼等は、自分たちの行方をカバノキの樹皮でできた松明を焚いて照らし、よく夜に魚を取っていました。夏の間には、小さな畑を耕し、そこで、トウモロコシ、大豆、カボチャなどを栽培していました。野イチゴとかジューンベリー、ツルコケモモの実、ナッツなども収穫していました。ヨーロッパ人と接触するようになると、Chippewa 族は、カワウソの毛皮の取引に強く引き込まれていきました。17 世紀の後半には、Chippewa 族は、拡大してゆき、そして、バラバラになっていきました。高度に武装した Chippewa 族は、ミシガンやウィスコンシンに侵入してゆき、Dakota 族(Sioux 族)やそのほかの部族を追放してゆきました。多くの Chippewa 族の者たちが Omaha 族や Potawatomi と同盟を結ぶ一方、そのほかの者たちは、南の地に向かったり、あるいは、大平原に移住していきました。Lac du Flambeau Band と言われる人たちは、ウィスコンシンに移り住み、ここで、今日も生活をしています。**部族旗について：** Lac du Flambeau の旗の真ん中には、盾の上に原住民の男の顔が描かれています。この盾の両側には、カバノキの樹皮の松明が燃えています。男の後ろには、ワシの姿が見えます。ほかに、重要なシンボルとして、パイプと羽が描かれています。

St. Croix Band of Chippewa

1600 年代の半ばに、Chippewa の一部の部族のものが、彼等の漁業仲間から分離し、取引商となるためにウィスコンシンの St. Croix 川にやってきました。1702 年までに、彼等は、ミネソタにある Rice Lake のあたりに村を築きあげました。フランス人とイギリス人が彼等との取引のために張り合いました。その結果、イギリス人が勝ち、彼等は幾つかの取引所を設立しました。1837 年までに、St. Croix Band は、合衆国政府に彼等の土地を譲渡しましたが、その時、彼等は、その地で狩猟、漁業、そして、野生の米を収穫する権利を保有していました。1854 年に彼等は、自身の政治的な管理能力を失い、保護居留区を形成することができなくなりました。生き残りのために、彼等が選択したのは、ほかの Chippewa の部族と一緒になることでした。彼等が正式に“ウィスコンシンの St. Croix　Chippewa”として認められるようになったのは、1934 年以降のことでした。そして、その年以降、彼等は先祖代々の土地に保護居留区を手にすることができるようになったのです。**部族旗について：**　野生のコメの穂が、この部族での重要性を象徴して、彼らの旗の中央にデザインされています。コメの栽培者たちは、畑のなかにカヌーを進め、そして、ボートのなかに穂から実を収穫していました。お米の穂は、こうした人々の初期のころの名前―Rice Lake Chippewa も表現しています。旗の緑色の背景は、農業の栽培者としての St. Croix の伝統を表しています。

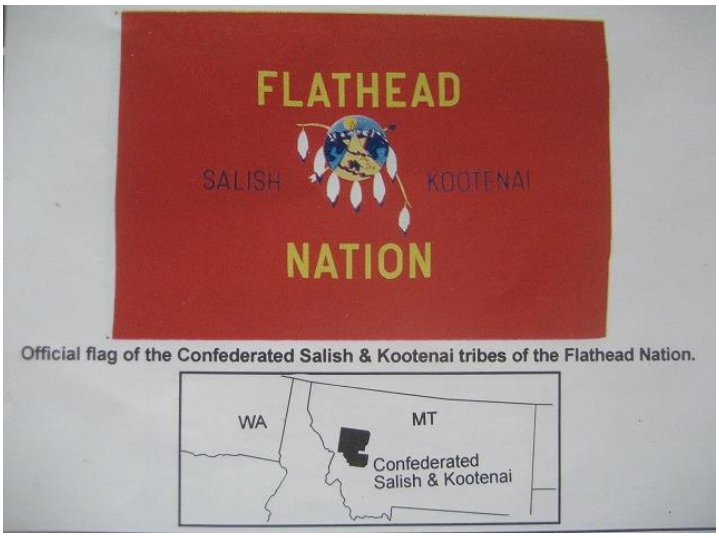
Choctaw Great Plains



Choctaw 族はもともと合衆国の南東部に居住していました。原住民アメリカ人の民族再配置の間、Choctaw 族は二つに分かれ、Choctaw Great Plains の人たちはそれ以来インディアンの強制居住区に移ってゆきました。ここは後にオクラホマの州となりました。Choctaw 族の人々は平和に暮らしていた人たちでした。彼等は、投票により、あるいは、ステッキボールというゲームをして、居住の議論を良くしました。彼等はすぐれた農業技術を持っていたと言われています；そして、その優れた農業技術のゆえに、彼等は、近くに住んで居たほかの部族と食料の取引をするほどでした。**部族旗について：**　三本の矢のついた弓と、パイプの手斧は、Choctaw Nation の歴史と伝統を象徴しています。弓は、もし必要な時には、これで自分たちを守ることを象徴しています。三本の矢は、三つの偉大なる Choctaw 族の酋長: Apuckshunnubbee, Pushmtaha, そして、Mushalatubbee を表現しています。彼等三人の酋長が、Doaks Stand の協定にサインしました。（1820）この協定で、合衆国は、ミシシッピー川のほとり Choctaw 族の土地の一部と引き換えに、オクラホマの膨大な領地を取引したのです。パイプのついた手斧は、彼等が会議の火のまわりに座っている時には、Choctaw 族は平和的な協議をしていることを象徴しています。

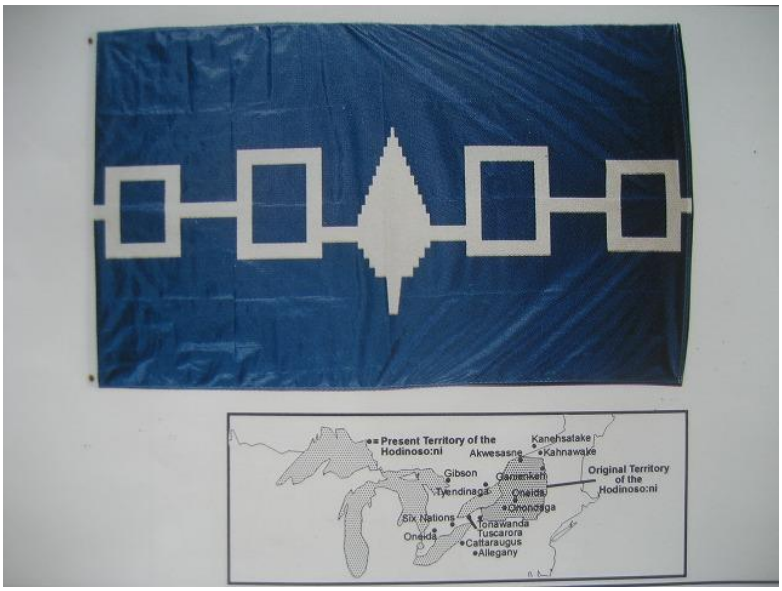
Poarch Band of Creek

Poarch Creek というのは、合衆国の南東部に位置していた、大昔の Creek Confederacy の一部でした。彼等は、民主的な手段で自分たちの統治をする人を選んでいました。それぞれの部落が統治機関、もしくは、Micco というものと、秀でた共同体の指導者たちを持っていました。部落は“赤い部落”と“白い部落”に分かれていました。赤い部落は、戦闘に関する決め事をする責任を持ち、白い部落は、平和を促進することに努めていました。Creek 族は、優れた農民でした。彼等の進んだ農業技術は、蓄えたり、取引をするほどたくさんの収穫をもたらしていました。Poarch Creek 族は今日でも、感謝祭に帰郷してくる人たちや Powwow 族の人たちと一緒に収穫を祝っているのです。1836 年に、合衆国政府は、14,000 人近くの Creek 族の人たちをインディアンの強制居住区に力づくで移住させました。いくばくかの人が後に残りましたが、結局は、アラバマ州の南東部に移住し、Poarch Creek Band になったのです。**部族旗について：** Poarch Creek インディアンのロゴは、彼らの文化、歴史、そして、伝統を象徴しているものです。緑の色は、彼等の歴史が森林の地帯のもので在ることを象徴しています。円は生命の輪廻を表しています。黄色は太陽を象徴化したものです。赤と白の十字は、Creek Nation の“赤と白の部落”が一緒になることを意味しています。



Salish and Kootenai of the Flathead Nation

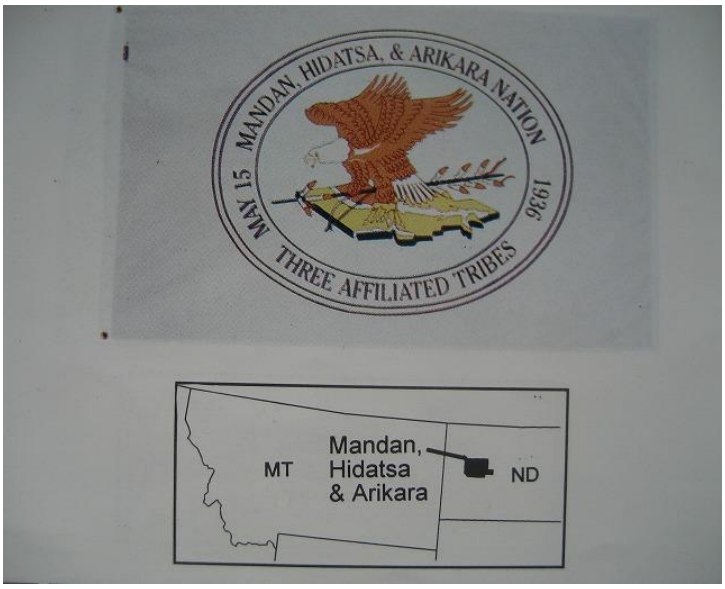
Kootenai 族はもともと、ワシントン州、アイダホ州、カナダ、そして 、ロッキー山脈の西の細長い地域に領分を持っていました。彼等は狩猟、漁業、そして、野生の食べ物を採取したり、さらには、タバコの栽培もしていました。彼等は、毛皮やマットで覆われた小屋に住み、時には、共同で集まって生活するような長屋を建てていました。1800 年代の後半に、Kootenai の罠をかけて魚を捕獲していた集団がモンタナ州にある Flathead 族の保護居留区に移住して行きました。Salish 族の人々は、もともと、一人の酋長と彼の部下に率いられた数家族からなる部族でした。彼等は狩猟や魚の捕獲で生計を立てていました。Salish 族は農耕をしませんでしたが、野生の野菜や木の実の採取はしていました。彼等は、一段と低くなった床の長い小屋、あるいは、マットで覆われた円錐状の住居のいずれかに住んで居ました。Salish 族の人たちは、1600 年の頃に、ブリティッシュコロンビアからモンタナ州の西部に移住してきた部族でした。**部族旗について：**旗は、保護居留区の自然の恵みを取り上げたもので、バッファローとティピーが描かれています。Flathead の保護居留区の 18,000 エーカー以上もの土地は、1908 年に制定された自然バッファロー生息域となっています。ティピーの後ろに見えるのは、青い色で縁取りされ、Flathead Lake を表しています。外形が描かれている山は、Mission 山脈で、ここは、保護居留区の東の境界線となっています。ティピー、弓、矢、盾、そして、ワシの羽は、それらの部族における歴史的な重要性から選ばれたものです。



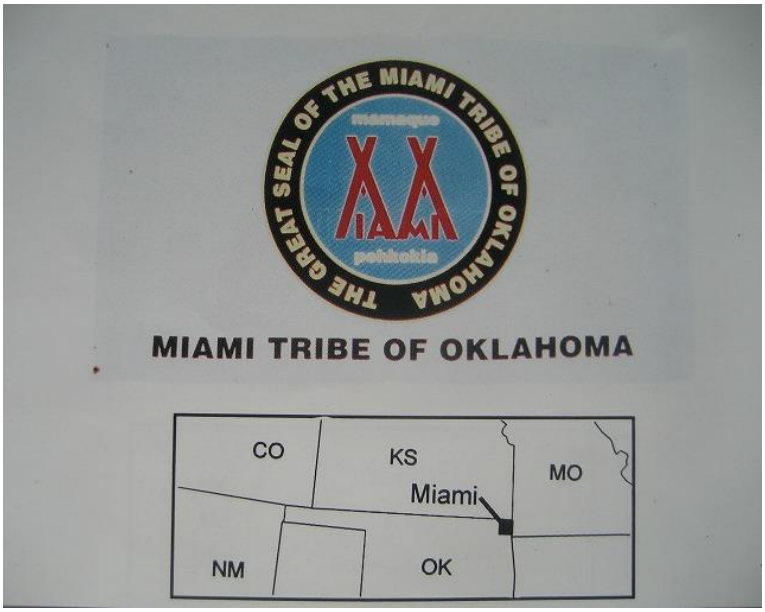
Iroquois Confederacy

Iroquois Confederacy（Iroquois 同盟） には、Seneca 族、Cayuga 族、Oneida 族、Onondga 族, Mohawk 族、そして、 Tuscarora 族の種族が含まれています。彼等は、自分たちのことを Hondinoso:ni と呼んでいますが、これは“家を建てる人たち”という意味です。この名前は、この同盟の政治的な形態と比べた時の、彼等の長屋的なものを象徴しているのです。この長屋というのは、それぞれの両端に扉を持った、長く、狭い、たくさんの家族が同居している住宅です。Peacemaker と呼ばれるひとりの男が、600 年くらい前に、最も古いものとして知られた民主主義の形の一つを作りだし、この種族を束ねていました。彼等の基本的な原則と統治の政策は、今でも合衆国政府の憲法のなかにみることができます。彼等の Great Law of Peace は、家族、共同体、執事職、そして、組織というものの概念に基本を置いています。現在では、彼等はアメリカとカナダの両方に住んで居ます。**部族旗について：**Iroquois Confederacy の旗は“Hiawatha Belt”という、五つの種族の間の平和同盟を表した貝殻玉のベルトを象徴化しています。右の四角は、東の扉の管理者である Mohawk 族を表しています。次の四角は、Oneida 族を表しています。“木”は、すべての種族のために、“火”を管理していた Onondaga 族を表しているものです。次の四角は Cayaga 族を表現しています。左の端は、西の扉を管理していた Seneca 族の象徴です。（Tuscarora 族は後になり、加わりました。） 図形を結んでいる白い線は、平和への過程を象徴しています。

Mandan, Hidatsa and Arikara：The Three Affiliated Tribes



Mandan 族, Hidatsa 族、そして、Arikara 族はそれぞれ別の種族ですが、彼等は、お互いに密接に同盟を結んだ North Dakota の部族でした。Mandan 族は、Sioux 族の言葉を話していました。彼等の家は、半分地下に床を低くした土づくりの小屋で、周りには防備のためにある種のくいの防護柵が施されていました。彼等は、中央集権化した統治機関も持っていました。Mandan 族は暮らしの手段として、穀物の栽培とバッファローの狩りをしていました。Hidatsa 族もまた、Sioux 族の言葉を話していました。彼等は元来遊牧の狩猟民族でしたが、結局は、彼等に農業の技術を教えた Mandan 族の近くに定住するようになりました。Hidatsa 族は、Crow 族と同じ先祖から来た子孫だと信じられています。Arikara 族は、南部の大平原から来た Caddoan 語を話します。彼等は 自分たちの村を、濠と銃眼つきの胸壁で要塞にし、一斉射撃の戦闘術を考え出していました。偉大なる戦闘集団でしたが、Arikara 族は基本的には狩猟民族であり、農耕民族でしたが、また、彩をした毛皮や縄文式の土器の工芸技術を持った部族としても知られています。**部族旗について：**ND の保護居留区の Belthold 砦の上空をワシが飛んでいます。このデザインは、保護居留区にある六つの区分を含んでいます。槍、弓、そして、矢は Mandan 族、Hidatsa 族、そして、Arikara 族の子孫たちが狩りや、戦闘の時に使った伝統的な武器でした。



Miami tribe of Oklahoma

Miami 族のもともとの故郷はミシガン湖の西海岸あたりです。初期の Miami 族が 6 つの部族に分かれてゆきました。彼等の政治的な体制はとてもよく組織化されていました。この各氏族の指導者たちからなる協議会は、村の首長となる主導者を選んでいました。村の協議会は彼等の代表者を部落の協議会に送っていたのです。そして、その部落の協議会の代表者が、今度は部族全体の協議会に送られたというわけです。こうした手続きで選ばれた人達は、部族の利益を考え、とりわけ高い信望を集めていました。Miami 族は基本的には農耕部族でした。彼等は自分たちのトウモロコシは、粉にするととても素晴らしい食料になることを知っていました。メロンとかカボチャ、豆などといったほかの作物も栽培されていました。東から移動してきた入植者たちの波が大変なトラブルをおこし、1827 年までに Miami 族の土地は、ほとんどなくなってしまいました。たくさんの Miami 部族がカンザス州に移って行き、そして、南北戦争の後、オクラホマ州に移ってゆきました。 **部族旗について：** Miami 族のシールの青い色は平和と平安を表しています。赤い色は勇気を表現しています。真ん中の二つのティピーは“Miami”という文字で描かれています。“Mamque Pehkokia”という文章は、“平和で共存すること”と訳されています。白い旗そのものは、Miami 族の葬式の時に使われる白い葬儀の旗にちなんでいます。

Stockbridge-Munsee Band of Mohican

The Mohican（Mahican）は、もともと現在のニューヨーク州の中心都市から遠く北の方に離れた場所、コネチカット州、マサチュセッツ州、そして、これに隣接するカナダの地域に住んで居たたくさんの部族の連合体でした。Mohican の人たちは、丘の上や、魚を捕ったり輸送したりするのに便利な川の近くに、防護柵のある村を作りここに住んで居ました。狩猟や農業が食料を確保する重要な手段でした。穀物は、魚のカスと灰の混ざったものを使って肥沃にされた土地で収穫されていました。Mohican の人たちはこうした食料を運んだり、蓄えたりするのに籠を編み、樺の木の樹皮を使って入れ物を作っていました。1600 年代の中ごろになり、Mohican の人たちは、ドイツを相手にしたカワウソの取引に非常に深い関わりを持つようになりました。近隣の部族との関係が難しくなったこと、そして、フランスとイギリスとの間の戦いが Mohican の人たちを次々に移住させ始めるようになりました。Stockbridge-Mohican Band の人たちは、ウィスコンシンに移住してゆき、1832 年に現在の彼等の保護居留区を設立しました。**部族旗について：**旗に描かれている動物は：オオカミ、七面鳥、熊、そして　亀ですが、これらは Stockbridge-Munsee Band of Mohican に属している四つの血族を象徴しています。円は、占いの輪 medicine wheel を表し、そこに彩られている色は四つの方角を示しています。円の中心には、Edwin Martin により描かれたもので, Mohican が“たくさんの軌跡”と呼んでいるデザインです。このデザインは、忍耐、強さ、そして、長い間の苦しみに対する希望、誇り、そして、断固とした人々を象徴したものです。

Navajo

アリゾナに位置している Navajo　Nation は、原住民アメリカ人の地域として最も大きなものの一つです。Navajo 族はもともとカナダの北西部から移住してきたと信じられています。彼等は、自分たちの周りの部族の習慣を取り入れ、彼等が自分たち自身で受け継いできたものとをうまく融合させ、彼等独特の、そして、複雑な文化を築き上げてきました。非常に多くの Navajo 族の人たちが今でも、ホーガンと呼ばれる泥や芝生で覆われた、伝統的な住居に住んで居ます。彼等は、絨毯を織るのと、トルコ石の宝石で非常によく知られています。**部族旗について：** 赤褐色の外郭は、Navajo 保護居留区の最近の境界を示しています。1868 年のもともとの協定で決められた保護居留区は、濃い茶色の線で示されています。保護居留区のまわりに見られるギザギザの形をしたものは山を表し、非常に重要な地点に位置している四つの神聖な Navajo の山を示しています。東の(白い)ものは、White Shell Woman、南(青)は、Turquoise Woman、西(黄色)は、Abalone Woman、そして、北 (黒) は、Jet woman を表しています。虹は、Navajo の統治権を象徴しているもので、一方、円は太陽を表しています。動物たちは、Navajo の家畜の経済を表しています。伝統的なホーガンという土づくりの家に住んで居ますが、ここでは、もっと近代的な家が示されています。油田の櫓がこの地域の潜在的な資源であり、現代的な粉ひき小屋が、この部族の最近の発展と工業を象徴しています。

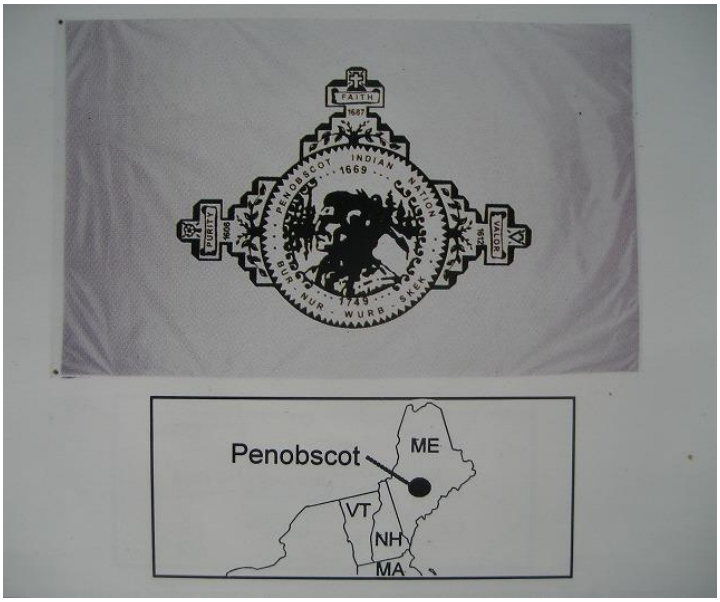
Oneida

Oneida 族の歴史的な故郷は、ニューヨーク州の中西部あたりにあります。彼等は、A.D.1300 年ごろに結成された民主連合体である Iroquois 同盟に属していました。この連合体が後に合衆国の設立に大きな影響を与えました．Oneida 族では、女性たちが穀物を栽培し,男たちは狩猟をしていました。人々は、100 フィートもある長屋で住み、そこには、5～6 家族が共同で生活をしていたのです。典型的な村は、柵でめぐらされた要塞のようになった中で、60 数棟の長屋で構成されていました。**部族旗について：** Oneida Nation のロゴは彼等の熊、オオカミ、そして、亀の血族の集まりを象徴しています。彼等は、大きな平和を象徴する木の防護で守られています。ワシは近寄ってくる恐怖を警告するように木の天辺にいます。その白い松の木は、“良き精神”を象徴しており、一方、根は、純潔を表現しています。松の木の緑は、Oneida 族が、偉大なる法律に忠実である限り、決してとだえることはないという約束を象徴しています。赤い色は、連合の前後で流された血を表現しています。そして、それはまた、Oneida 族に、平和と統一を推進させることを思い起こさせるものでもあります。紫色の飾りは、平和を象徴しています。

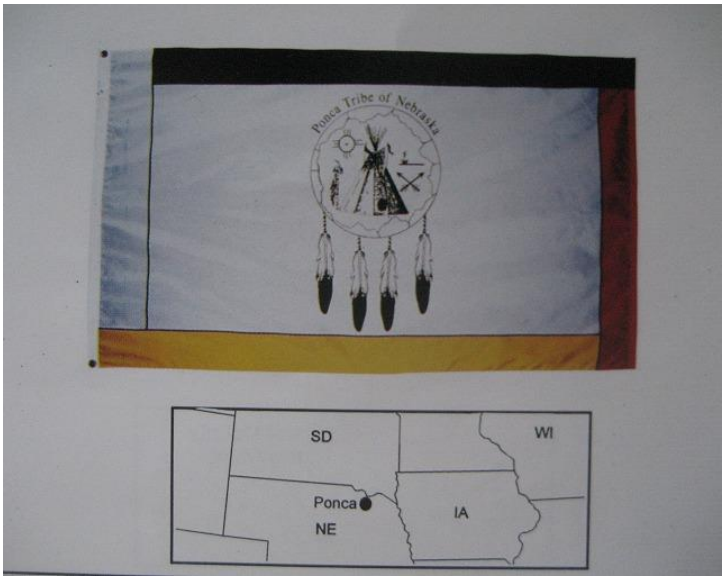
Osage

Osage 族, Kansa 族（ Kaw 族 ）, Omaha 族, Ponca 族,そして、 Quapaw 族というのは、もともとは一つの東海岸に居住していた集団ですが、彼等は西部に移住していくときにそれぞれがバラバラになったのです。1600 年代の中ごろ、Osage 族は、ミズーリ州のオセージ、並びに、ミズーリ川の周辺に住みつき、ミシシッピー川からロッキー山脈までの広大な土地の所有を主張していました。彼等は、毛皮や織ったマットで覆われた円形の小屋に住む狩猟民であり、かつ、農耕民でした。年に二度ほど、Osage 族はバッファローを追って狩りにでかけ、その時は、ティピーに住んで居ました。1818 年までに、Osage 族は、彼等の膨大な土地を、カンザスの土地を残して、すべて合衆国政府に売却をしました。後に、彼等はカンザス州の土地も売り、オクラホマ州にいくらかの土地を購入しました。1906 年ころに、オクラホマの土地は、部族のなかの者たちに分譲されましたが、しかし、部族は、採鉱の権利は保持しました。沢山の Osage 族の人たちは、彼等の保有する土地から石油が出て、1920 年代にはとても金持ちになったのです。**部族旗について：**Osage Nation のシールは、1955 年に制定されました。金色の円は、部族の繁栄を表しています。青い鏃は、狩りと戦闘を意味しています。平和はパイプで表現されています。パイプは、協定がサインされた時に吸われ、平和的、かつ、友好的な関係を示しています。ワシの羽のうちわは、血族のなかの、あるいは、部族のなかの行事における高い任務の権威を表しています。

Penobscot



Penobscot 族は、1860 年代まで、メーン州全体に居住していた、東部、Abenaki 同盟の生き残りの部族です。彼等の居留地は、今はメーン州の Penobscot 川のなかにある島々からなっています。彼等の話す言葉は、Iroquois 族と同じように、アルゴキン語系の変形したものです。彼等の生活体系が農業を基本にするようになる前は、Penobscot 族は、熊、ムース、そして、鹿などの狩猟をしていました。また、彼等はベリーを採集したり、メープルの樹液を集め、シロップを作っていました。この食料形態の幅は、漁業、貝や魚によりさらに広がっていきました。旧い時代の家は、樹皮や樺の木のマットで覆われた、柱の骨組みからできた建物でした。**部族旗について：** Penobscot 族の旗は、彼等の部族の歴史の中で最も重要であった五つの時代を反映したものです。彼等がヨーロッパ人と最初に接触するようになったのは 1606 年で、このとき、George Weymouth 大尉が彼の探検隊をメーン州の海岸に上陸させました。1612 年には、Penobscot 族は、Nova Scotia の Micmacs 族と対抗した戦争ではたいへんな武勇を示しました。1687 年には最初のカソリック布教使節が送り込まれ、人々の間にキリスト教が広まろってゆきました。1749 年には、マサチュセッツ州と penobscot 族との間に平和協定が結ばれました。“BUR—NUR—WURB—SKEK” という言葉は、彼等の伝統的な言葉で、“Penobscot” を表しています。



Ponca Tribe of Nebraska

1700 年代に入り、南ダコタの故郷から Ponca 族がネブラスカに移り住んできました。1877 年に、合衆国政府は、ポンカ族の酋長をオクラホマにある居留地の候補地に送りました。酋長たちは、その場所を好ましく思わなかったのですが、彼等が故郷に戻ってみると、人々はすでに故郷を去る準備をしていたのです。オクラホマに移ると、Ponca 族は食料もなく、そして、病気がはやりました。実に部族の 1/3 もの人が亡くなりました。Standing Bear の息子が亡くなると、彼の家族はその亡骸をもってネブラスカにある彼等の先祖からの神聖なる墓場に向かいました。インディアンたちは彼等の居留区から離れることを許されておらず、彼等は裏切り者として拘束されました。長い経過の末、Standing Bear と彼に従った人々は自由の身となりました。1881 年に、ネブラスカにある彼等の土地が彼等に返却され、たくさんの Ponca 族の者たちが、この北の地の故郷に戻ってゆきました。この Ponca 族の本拠地は、ネブラスカの Niobrara にあります。**部族旗について：** この旗は、Jerri Cross（Ponca）によりデザインされたものです。パイプと、十字に交叉した矢は、平和と友好を表しています。太陽は、Wakoⁿ'da(創造の主) の元で、すべての生き物が一体であることを象徴しています。四つのワシの羽のついた精神の輪は、すべてのものを取り込んでいます。四という数字は Ponca 族には神聖なもので、四つの風、あるいは、四つの方角を表しています。ここに描かれている色は 、方角と、そして、部族のなかの四つの種族を象徴したものです。

Ponca Tribe of Oklahoma

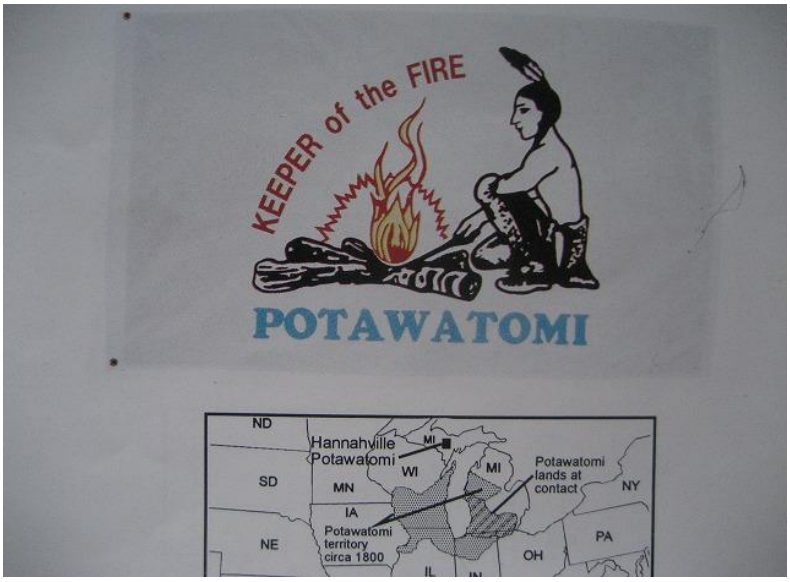
Ponca 族は、もともとは、オハイオ川の渓谷に住んでいた部族です。後に、彼等は今のサウス・ダコタ州に移り住んでゆきました。1700 年代の初めころに、彼等の土地に Sioux 族が入ってきて、Ponca 族を南のネブラスカ州に追いやりました。Ponca 族が話している言葉は、Kaw 族(Kansa 族), Omaha 族, Osage 族, そして、Quapaw 族が話している言葉と関係しています。彼等原住民の言葉で、"Ponca" というのは、"神聖なる頭" という意味です。主としてバッファローの狩りをして生活を維持していましたが、Ponca 族は毎年二度ほど、食料と毛皮を確保するために狩りに出かけていました。特別な、"Buffalo Police" と呼ばれる人たちは、その狩りがうまくいくようにという責任を持っていました。狩りに出かける時には、Ponca 族はティピーに住んで居ました。一年の残りの時期は、彼等は土づくり、あるいは、毛皮で覆われた小屋に、砦を築くような形で住んで居ました。農業と漁業が、Ponca 族の食料を補充していました。1877 年に、たくさんの Ponca 族の人たちがオクラホマに移ってゆきました。しかし、与えられた土地で、彼等は生活が苦しく、議会にそれを訴えていました。ネブラスカの多くの土地が彼等に返却され、沢山の部族の人たちが北のこの地に戻ってゆきました。オクラホマの Ponca 族の人たちは、1950 年に自治が認められ、七人の委員会により統治されるようになりました。**部族旗について：** 太陽と三つのティピーが、オクラホマの Ponca 族の旗に描かれています。平和のパイプが、その前にあります。

Citizen Potawatomi

もともと Potawatomi の人たちは、ミシガン湖の東岸に住んで居た部族です。彼等はアルゴキン語を話す人々で、歴史的には、Iroquois 族、Seneca 族, Ottawa 族、そして、 Ojibwa 族との関係があります。彼等の社会は非常に複雑な構造をしています。村は長老会という協議会の代表者でもある酋長によっておさめられていました。Potawatomi 族は、樹皮で覆われた小屋、あるいは、ちょっと小さ目の丸屋根型をした、木を曲げて作ったテント小屋に住んで居ました。ラクロスの競技場も村の行事のなかでは非常に大事なものと考えられていました。男たちは丸太をくりぬいたカヌーを作り、女達は土器をつくっていました。男たちは刺青をするのが普通で、男も女もともに体に文様を付けていました。鹿や、ピーナッツ、メープルシロップなどと同様に、魚が Potawatomi の人たちには大変好まれた食料でした。やがて、戦闘がおこり、このときに Potawatomi の人たちは、小さなグループに分かれてゆきました。そして、これらの集団のいくつかが、南西の方に移ってゆき、今の Kansas 州やオクラホマ州に定着したのです。Potawatomi の市民は、現在では、主としてオクラホマ州の Shawnee を中心に生活しています。**部族旗について:** 彼等の旗に象徴化されている、Potawatomi の市民集団にきわめて重要なものは、パイプと、戦闘の斧です。火は、1600 年代の三つの部族の同盟の証の“神聖なる灯の管理者”としての彼等の地位を表しているのです。

Forest County Potawatomi

1800 年代に Potawatomi 族は、ミシガン湖の南岸に居住し、Ottawa 族や、Chippewa 族と同盟を結んでいました。この二つの部族は、Potawatomi 族を“火の管理者”として認めていました。このことは、彼等が神聖なる火を三つの部族の同盟の象徴としようと考えていたことを証明しているのでしょう。1833 年までに、ミシシッピー川の東岸の土地はすべて合衆国政府に譲渡されました。いくらかの人たちは、そこにとどまりましたが、沢山の Potawatomi の人たちが、“死の行軍”として知られる強制的に退去をさせられたのです。Forest Country Potawatomi 部族という集団が、1913 年にこの残った人たちにより作り出されました。皮肉にも、ウィスコンシンの北東部にある彼等の現在の場所は、1833 年に約束されはしたが、なかなか支払われなかった基金により購入されたものです。彼等が正式に認められたのは、1937 年になってからでした。**部族旗について:** 火の方を向いている戦士は、1600～1700 年代にかけて、彼等が、Ottawa 族、そして、Chippewa 族と同盟を結んでいた時の、神聖なる火の管理者としての Potawatomi を表現しています。後方の円は、生命の輪廻、あるいは、占いの輪を表しています。四つの色は、四方の方角を象徴しています。黄色は東を表し、新しい生命を意味しており、赤い色は、南と若返り、白い色は北と睡眠を象徴し、黒い色は、西と、そして、人生の終わりを表しています。

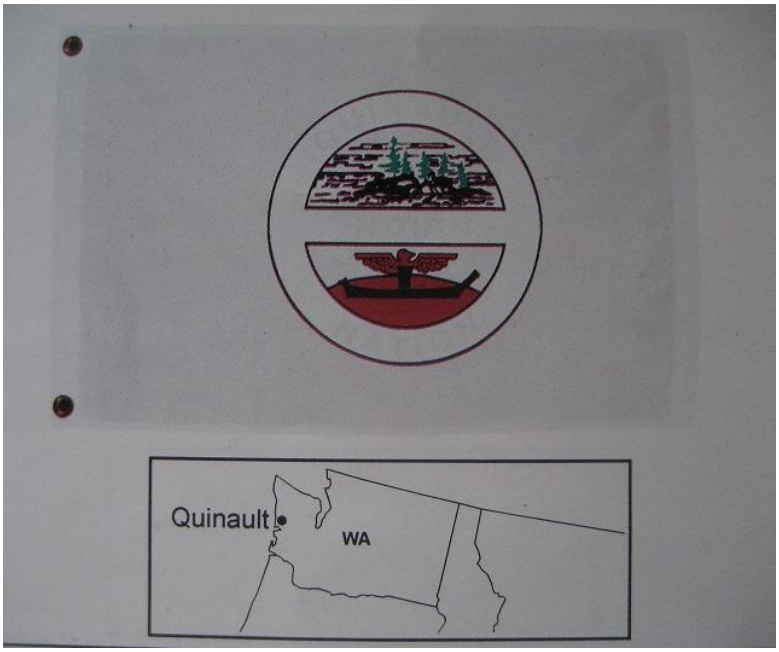


Hannahville Potawatomi

Potawatomie 族というのは、Ottawa 族や、Ojibwa 族と関係をもつ部族でした。彼等は、もともとはミシガン湖の北東部の地域から移住して来た部族で、1640 年代にミシガン州の北部地域で活発にフランス人との間の毛皮取引をするようになりました。後に、彼等は南に移動し、Illinois 族や Miami 族が住んで居た地域に入って行きました。Potawatomi は、Ottawa 族や Miami 族を相手に、オハイオ渓谷の土地を巡って争いをしていました。1794 年に敗北を喫し、Potawatomi は崩壊し、彼等は小さな部族に分割されてしまいました。ある者たちは南西部に、そして、強制的に移動させられることを拒絶した者たちは、五大湖の近くに居残りました。Hannahville というのは、今日でも、いまだにミシガン州に残っているそうした集団の一つです。一時期、Potawatomi は、30 以上もの異なる血族の集まり、彼等は父型の血縁で結ばれていたものですが、そうした集団から成り立っていました。人々は、自分に近い血族のものとは結婚することができませんでした。Potawatomi 族は農民として生活を続け、トウモロコシ、エンドウ豆類、大豆、そして、メロンのような穀物を栽培していました。そして、冬になると、鹿、エルク、熊、などの動物を追って狩りをしていました。**部族旗について：** Hannahville Potawatomi 族の旗には、“火を燃やし続ける者の”という言葉のついた、火を見守っている一人の若者が描かれています。これは、Potawatomi 族が神聖なる火の管理者であったことを意味しています。これは、Potawatomi 族が Chippewa 族や Ottawa 族と 16 世紀に同盟を結んでいた時のことです。

Quapaw(O-GAH-PAH)

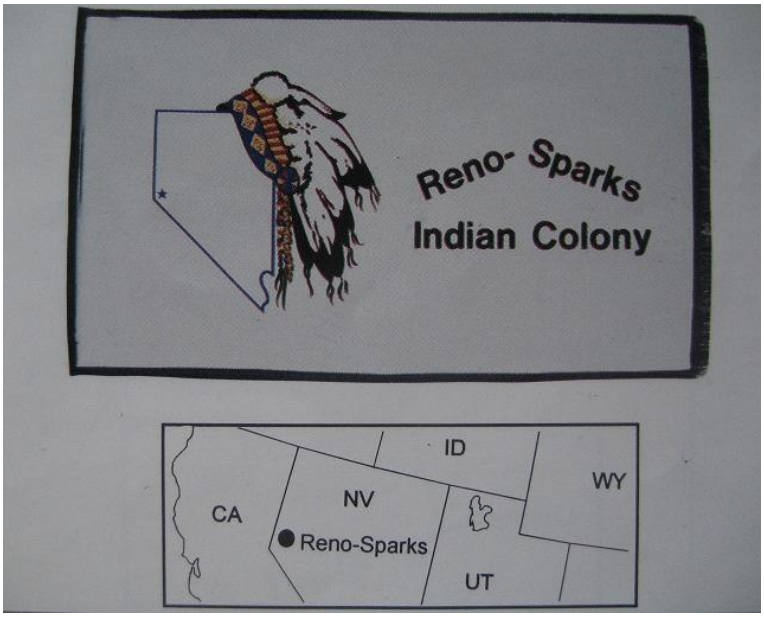
Quapaw 族は、15 世紀には、オハイオ川の渓谷の小さな部落に住んで居ました。最も重要な食料源はバッファローでしたが、しかし、彼等はトウモロコシや大豆、カボチャ、ウリ、タバコ、そして、スモモなどを育てていました。近くの川では魚を捕獲することができました。最終的には、Quapaw 族は、Iroquois 族により彼等の土地から追われてしまいました。彼等は西に移動し、ミシシッピー川に辿り着いたのです。ここで彼等は二つの集団に分かれました。その一つは西に向かい、川をさかのぼり、他の者たちは川を下って行ったのです。Quapaw 族は、最終的には、彼ら自身が O-GAH-PAH、“下流に下って行った人々” と呼んでいるアーカンソー州に定住するようになりました。**部族旗について：** 盾の真ん中に描かれたバッファローは、Quapaw 族のバッファローへの依存と、彼等の持つその皮をなめし、そして、絵を描く高い技術を表しています。ワシの羽は、四方の方角を示し、この四つという数字は神聖なる数字と思われています。Quapaw 族は、ワシが空高く舞い上がるということで、非常に崇敬しています。そして、その彼等の信仰では、ワシは神と話をしていると思われています。旗の背景となっている赤と黒の地は、原住民アメリカ人の教会での会合の時に使われている毛布を象徴しています。この Quapaw 族というのは、この原住民アメリカ教会を最も早く受け入れた部族の一つでした。



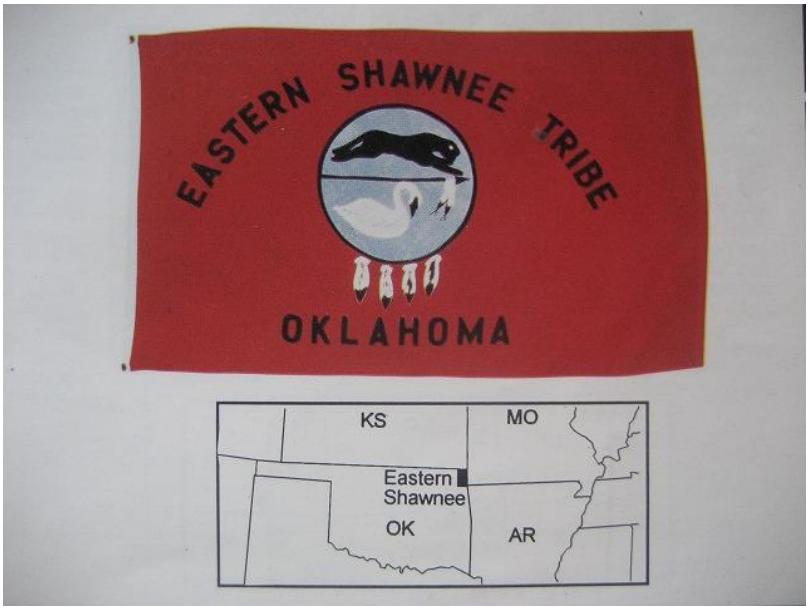
Quinault

Quinault 族は、現在のワシントン州、Taholah に保護居留区を持つ北西海岸に住んで居た部族です。18 世紀に、Quinault 族は、およそ 20 ほどの部落を持ち、そのそれぞれには独自の酋長がいました。そうした酋長たちの力は、彼等の富と、家族の繋がり、個人的人格と、そして、カリスマ性でした。通常、村は 2～6 家族からなる、いくつかの複数の家族が一緒に住んで居た長屋から成り立っていました。Quinault 族は、家の前に縁台のある、切妻の屋根をしたヒマラヤスギの厚板でできた家を建てていました。家のなかは壁に沿って、寝る時や物置の棚として使われていた台がありました。鮭の捕獲が人々のおもな生活の糧でした。漁師たちは、網、モリ、そのほか、釣り針を使っていました。捕鯨も重要なものでしたが、この危険な生き物にも拘わらず、我が身を守る能力にたけた人たちだけがこれに挑戦していました。Quinault 族のそのほかの獲物は、アザラシ、カワウソ、アシカ 、エルク、熊、鹿、ビーバー、それに、山猫などでした。根株や木の実なども、食料の足しに収穫されていました。今日、鮭の捕獲は、自分たち自身で魚の加工会社を持つほど,Quinault 族にとっては極めて成功した経済的な業務となって存続しています。**部族旗について：** Quinault 族の旗は、こうした北西海岸の人々にとって非常に重要なものを描いています：島々、樹木、ワシ、海、そして、海に漕ぎ出すカヌーがそれです。

Reno-Sparks Indian Colony



Reno-Sparks Indian Colony は、1800 年代の後半に一緒になった四つの部族：Washoe 族、Shonshone 族, そして、Northern と Southern Paiutes 族、から成り立っております。小さな集団で、彼等はネバダ州、オレゴン州、ユタ州、アイダホ州、アリゾナ州、そして、カリフォルニア州にまたがる地域を放浪していました。コロラド川の河岸大地の辺りに住んで居たいくつかのグループは、トウモロコシ、大豆、そして、カボチャなどを栽培していました。松の実、食用の植物なども収穫し、魚の捕獲に加え、彼等の生活を適度に快適なものにしてくれる獲物の狩猟などもしていました。彼等は、この地域に住んで居た他の居住者たちとも交易をし、商業を営んでいました。武力衝突が起きたのは、たいてい、経済的な理由からでした。その時には、あるグループが襲撃し、他の部族の財産を略奪するというようなものでした。**部族旗について：** 旗は、Oscar Johnson, Jr. 彼は、ネバダ州の Paiute/Washoe 族の一人でしたが、その彼によりデザインされたものです。羽飾りは、栄誉と尊敬を表現しています。ここには、先祖の部族が住んで居た地域を象徴して、ネバダ州が描かれています。星のマークは、今日の Reno-Sparks Indian Colony のインディアン協会がある場所を表しています。



Eastern Shawnee

Shawnee 族は、もともと彼等が住んで居た北東の地域から、現在のテネシー州に移り住んできて、その後、オハイオ川渓谷に入って行きました。Shawnee 族は、よく移住をしており、彼等はそのたびに、その地で手に入る素材に合わせて、家のスタイルを変えてきました。最も、よく知られた建物は、楡の木やカバノキの樹皮で覆われたテント小屋でした。1700 年代の中ごろ、酋長の Tecumseh と彼の兄弟が、白人の入植者たちの動きに抵抗して、一族のものをオハイオ川の渓谷に導いてゆきました。1813 年に Tecumseh が亡くなると、Shawnee 族は小さな集団に分裂していったのです。そのいくつかは、合衆国に統合されていきましたが、他の者たちは、他の近隣の部族と同盟を結んでいきました。Eastern Shawnee 族は、オハイオの Seneca 族と一緒になりました。1860 年代の後半、彼等は、現在のオクラホマ州のインディアン強制居住区のなかの Ottawa County に移住させられました。**部族旗について：** Eastern Shawnee Nation の偉大なる標章の円は、世界、あるいは、宇宙を表しています。この円に掲げられている四つの羽は、四つの風と大地の四つのコーナーを表しています。豹は、強さと勇気、そして、戦闘での大胆な行為を象徴しています。優雅さ、威厳、こう言ったものが白鳥により表現されて、描かれています。モリと羽は Eastern Shawnee 族がアメリカ合衆国とともに永久に相互の保護をすることに努めることを表しています。

Tlingit and Haida

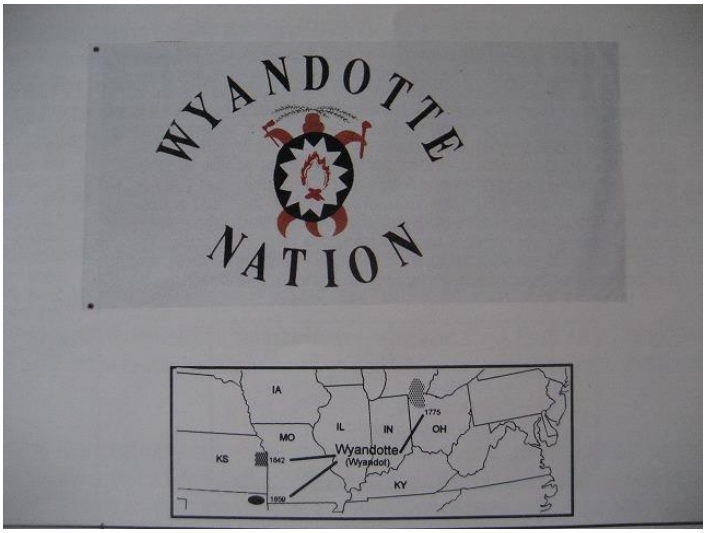
Tlingit 族、並びに、Haida 族は最近では、アラスカの南海岸地帯に住んで居ます。以前は、極めて豊富な土地と海が彼等に必要なものすべてを供給していました。彼等は、自分たちの食料の確保と蓄えるきわめて洗練された技術を開発していました。この技術が人々の豊かな生活を可能にしていました。双方の部族とも、トーテムポールを彫り、面を作ったり、樹皮から織物をつくる部族として知られています。彼等の印象的な建造物は、切妻の屋根をした厚板で作った家です。こうした歴史的な家が現在もなお、その家の入り口にトーテムポールを立てているのです。Haida 族と Tlingit 族は死を讃え、そして、生命の威信を増幅させる儀式である、有名な“Potlatch(盛大な贈り物をする祝宴)”の儀式を発展させました。この儀式の間、膨大な量の食料と贈り物が交換されたり、あるいは、贈呈されたりしていました。**部族旗について：** この旗は、Tlingit 族と Haida 族の中央議会を表しています。中央に描かれた青い絵は、アラスカの彼等の故郷となっているアラスカ州です。描かれている文様は、北西海岸地帯に伝わる伝統的な手法で描かれたワシとカラスです。これらの鳥は、Tlingit 族の住んで居る地域の二つの血族集団を表しているのです。これらの血族集団の下に、熊とかオオカミ、さらにはビーバーと言ったような、そのほかの動物の名前が付いたさまざまな準集団があります。

Cow Creek Band of Umpqua

Cow Creek Band of Umpqua は、もともとは、オレゴン州の南西部を流れる South Umpqua 川に沿って生活して部族でした。彼等の生活の糧は、狩猟、植物の採集、そして、漁業でした。鮭やそのほかの魚と同様、鹿やエルクが豊富でした。Umpqua 族は季節に応じた家屋を持っていました。冬に彼等が住んで居た家屋は渓谷のなかにあり、そして、ヒマラヤ杉の厚板や樹皮で覆われた、半分地下に沈んだ円形の家に住んで居ました。夏の家は、似てはいましたが、家を覆っていたものはマットや毛皮でした。夏の間 Umpqua 族は、山に移住をしていたのです。**部族旗について：** ワシは、Umpqua 族の人々の剛健さを表しています。ワシの爪に掴まれた魚はこの部族が食料を魚に依存していたことを象徴しています。山は夏の間の Umpqua 族の先祖代々の故郷と、山々から得られる食料を表現しています。花を咲かせた木の枝はハックルベリーの枝で、これは、Umpqua 族にとっては非常に重要な産物でした。1853 年に、合衆国政府と、Umpqua 族との間の統治機関同士の関係を制定する協約が結ばれました。1982 年になり、この部族は、1956 年に破棄された 1853 年の協約に基づいた統治国として、部族として再承認されました。

Southern Ute

Southern Ute は、以前はコロラド州の南部、ならびに、ユタ州の東部に小さな集団を作って生活していました。彼等は、エルク、アンテロープ、ウサギなどの動物を狩猟していました。パインナッツ、野生の野菜、そして、ベリーなどが彼等の食料源として、非常に重要なものでした。彼等は、当初、森のなかや、あるいは、柱を円錐形に組立てた家のどちらかに住んで居ました。後に彼等はティピーを使うようになりました。1877 年に南ユタ保護居留区がコロラド州からニューメキシコ州の州境にかけて設立されました。最近では、この部族の主たる工業は観光業になっており、さらに、天然ガスとか石油などの生産も行われています。 **部族旗について：** 部族のシールのなかの赤と白の境は、“Circle of Life(生命の輪廻)”を意味しています。この円のなかのすべての者が、Southern Ute 族の生活を表しています。山と森は、彼等の先祖の故郷を表しています。熊とエルクは、この居留地に住んで居る獲物です。太陽は、Southern Ute 族の人々を見守っている精霊を意味しています。トラクター、子牛、石油井戸、そして、羊は部族の産業を表しています。平和のパイプと緑の葉のついた枝は、Southern Ute 族の人々の平和に対する願望を表しています。パイプの上にある二つの羽は偉大なる精霊と、部族としての人々の“癒しの力”のなかにみられる部族の信仰を象徴しています。コロラド州の州旗は彼等の歴史的な故郷を讃えるものです。



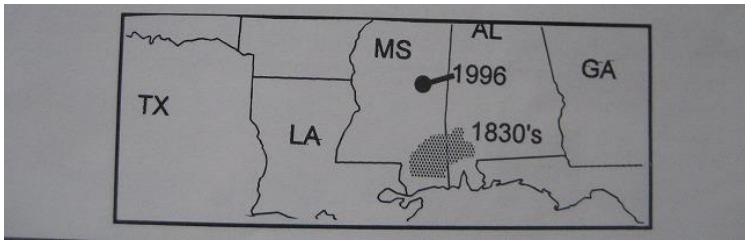
Wyandotte　Tribe

もともと、この wyandotte 族は、オンタリオ湖の北側のカナダに住んで居た部族の一団が結成していた Huron 同盟の一部族でした。彼等の食料の糧は、狩猟や漁業でした。彼等は、1745 年の初めに、故郷を追われ強制的に移住させられました。1870 年代までにいくつかの集団が、オハイオやカンザスで時を過ごしたあと、オクラホマに移住してゆきました。この移住の間に、彼等は生き延びる手段として農業に従事するようになりました。彼等は、レッドビーン、トウモロコシ、豆類、カボチャ、そして、タバコなどの作物を栽培していました。今日では、この部族はオクラホマ州の Wyandotte に大きな共同企業体を設立し、そこには、図書館とか民族館なども持っています。彼等の健康管理のプログラムはとても優れたものとして注目されています。　**部族旗について：**　旗に描かれた亀は Wyandotte　Nation の象徴です。その背中の点は、もともとの 12 の血族集団を表しています。火は、彼等が、“議会の火の管理者” であることを表しています。亀が持っているパイプと戦闘用の棍棒は、平和か、それとも、戦闘を選択する Wyandottes 族の権利を表しています。柳の木の枝は、生命の永続を表しています。旗の色 : 赤、白、そして、黒は、Wyandotte Nation を象徴している色です。

Gallery of Nations に展示されている幾つかの部族は、彼等の部族の旗をこの小冊子に載せられることを望んでいません。彼等の意向に鑑み、我々は、ここでは、旗の説明には部族についての歴史的、並びに、文化的な記述だけを掲載してあります。

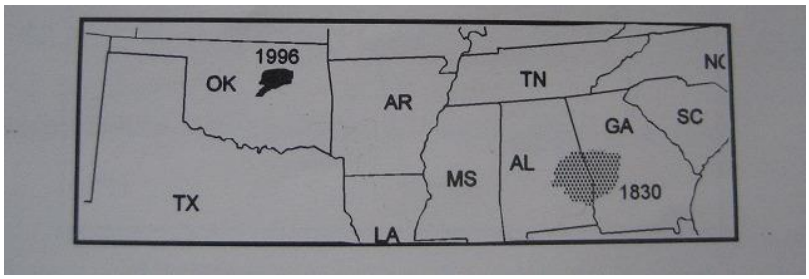
Mississippi Band of Choctaw

Choctaw 族は、Cherokee 族, Creek 族, Chickasaw 族,そして、Seminole 族と並んで、“Five Civilized Tribes” と言われた部族の一つとして知られています。彼にこの名前が与えられたのは、彼等と最初に接触したヨーロッパ人が彼等の文化が洗練されたものであるのに驚いたからでした。Choctaw 族は、素晴らしい農民で、彼等の生活様式はまさしく快適なものでした。Mississippi Band of Choctaw は、合衆国の南東部に起源を発する二つの Choctaw 部族のうちの一つです。インディアンの強制退去が行われた時期に、多くの Choctaw 族の者が、インディアンの強制居留区(オクラホマ州) に移住することを決断しましたが、Mississippi の部族は彼等のもともといた森の地域に残る選択をしました。 この旗は 1970 年代に Mississippi Band of Choctaw の人たちに正式に採用されました。ここに描かれているデザインには、スティックボールのスティック、ボールとともに太鼓を見ることができます。ヒッコリーでできたスティックは、繁栄に対する Choctaw 族の人たちの固い信念を表しています。太鼓は民衆の声を表現したものです。赤い色は、多くの戦いのなかで流された Choctaw 族の人たちの血を表しており ; 白い色は部族の文化の純粋なことを、そして、青い色は部族の将来の繁栄に対する希望を表しています。こうした色は、同時に、合衆国の旗をも意味しているのです。



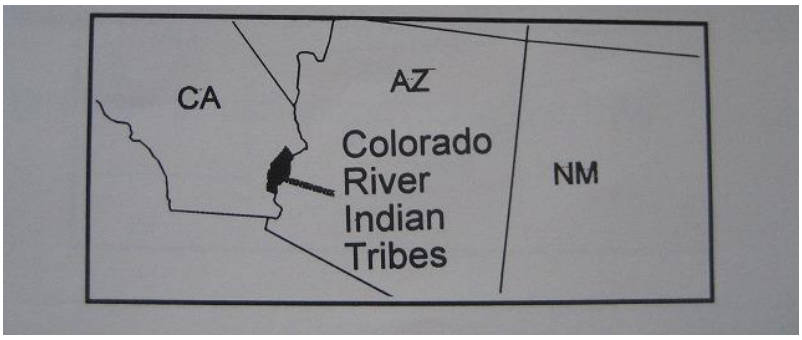
Muscogee （Creek）

1600 年代に、Creek 同盟は北アメリカの地域に住むインディアンたちのなかでも最も強力な政治力を持ったものの一つでした。彼等の複雑化した社会の組織と、極めて発達して生活様式は、彼等に、Five Civilized Tribes Confederation という同盟に参画させるほどのものでした。Creek 族の町は、“Miccos”と呼ばれた選ばれた指導者、彼は部族の議会の会合には村の代表となっていたのですが、その彼によって統治されていました。村は、中心に広場があり、そのまわりにたくさんの家族が集団で生活する小屋があり、こうした形から成り立っていました。彼等は非常に優れた農耕部族で、よく、取引に供するほどの余った食料を持っていました。こうした農業の伝統は、今日でもなお、14 日間にもおよぶ、“Green Com Dance”と言われる儀式で、お祝いをされているのです。1836 年の冬に合衆国政府は、14,000 人もの Creek 族の人たちをオクラホマのインディアン強制居留区に移動させました。この旅の間に、推定して 3,500 人にも及ぶ人達が、飢えと寒さのために亡くなりました。生き残った人たちは、彼等の古い時代の呼び名を使って、自分たちのこと“Muscogee 族”と呼んでいます。　小麦の束は、Muscogee 族にとっての農業の重要性を表現しています。鋤は、バイブルに出てくるお告げ：“見よ、その日の来ることを。主は言われる。農夫は、やがて、刈りをする人にならんと。”という、聖書の預言を表しています。“I.T.”という頭文字は、(オクラホマの) インディアン強制居留区を表しています。



Colorado River Indian Tribes

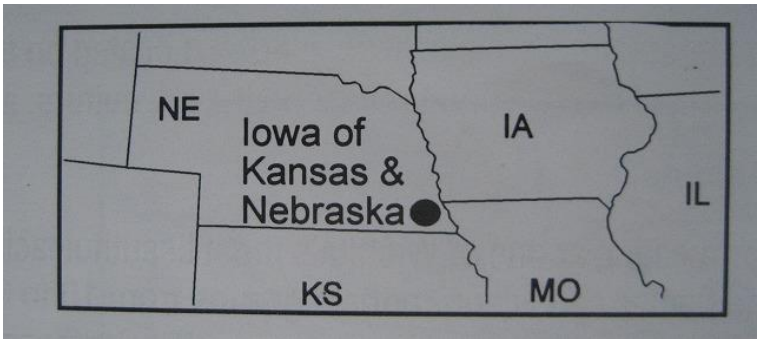
Colorado River Indian Tribes は、1865 年に Mojave & Chemehuevi 族によってはじめられた連合体で、後に Navajo & Hopi の部族を加えました。Mojave 族は、コロラド川下流の地域に小さな集団に分散して住んで居ました。彼等は、魚をとり、農耕をし、そして、ナッツやベリーを採取して生計を立てていました。Hopi 族は、アリゾナの Navajo　保護居留区のなかにあるメサに住んで居ます。彼等は、Anasazi 族、この部族は数多くのプエブロ文化の古代の先祖ですが、その子孫です。Hopi 族は彼等のことを“平和を愛する人々”と呼んでいます。彼等は農耕部族として村に定住しています。Chemehuevi 族は、放浪しながら、狩猟や採集をして、社会を形成していました。もともとは、ネバダ州の南部の地域にいたのですが、彼等は季節により野生の食料を栽培したり、ウサギとか、リスと言った小さな動物の狩りをしながら移住をしていました。Navajo 族 （Navajo 旗を参照 ）　**部族旗について：**　オレンジ色は、コロラド川のインディアン保護居留区に育つたくさんの穀物を生み出す自然のエネルギーのもととなっている太陽を表しています。四つの羽は、CRIT を構成している四つの部族を表しています。茶色の色は穀物を育ててくれる豊かな大地を意味しています。鮮やかな青色は、農地に灌漑として注ぐ貴重な水を象徴しています。



Iowa of Kansa and Nebraska

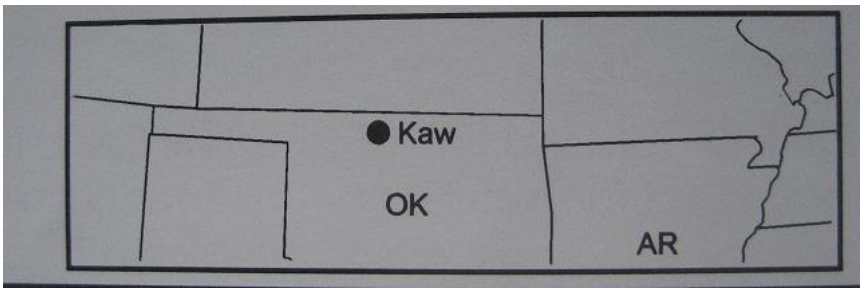
Iowa 族は、もともとは樺の木の樹皮で覆われた,柱の骨組みを持った家に住み、そして、狩りに出かけたり、移動したりするときにはティピーに住んで居ました。農耕や狩りをすると同時に、彼等は鉱山採掘に従事したり、取引商人としても活躍していました。彼等は、鉛、パイプストーン(Catlinite) 、これから彼等はパイプのよう

なものを作っていましたが、こう言ったものを採掘していました。もともとは、五大湖の北の地域に住んで居たのですが、その後、イリノイ州やアイオワ州に移り住むようになりました。1870 年代の終わりに、合衆国政府は、Iowa 族の一部をオクラホマ州に移住させ、残りのものは、カンザス州やネブラスカ州に移り住みました。**部族旗について:**　旗に描かれている肖像は、Iowa 族の酋長のなかでももっともよく知られた酋長のひとり、Jim Whitecloud 酋長です。緑色は、Whitecloud の家族を表しており、彼等のうちの何人かは、今日の Iowa　族の統治の責任者となっています。盾が、原住民アメリカ人を象徴するものとして描かれており、羽は、平和と繁栄と幸福、そして、健康を意味しています。



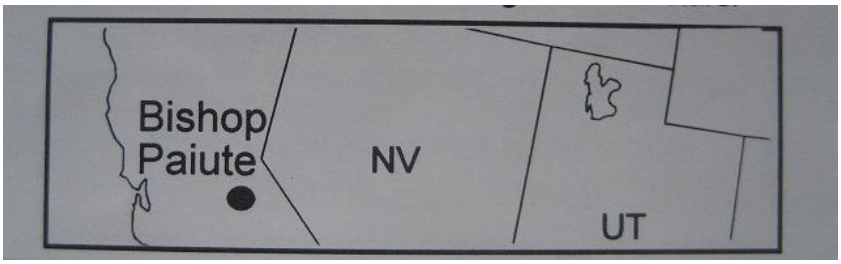
Kaw (Kansa)

16 世紀には、Kaw 族、もしくは、Kansa 族は　カンザス川、並びに、ミズーリ川の近くに住んで居ました。それぞれの村は、選挙で選ばれた酋長によって統率されていました。その後、こうした酋長は、すべての村の面倒を見るように選ばれました。酋長たちは、民主的な過程で決められましたが、しかし、後にヨーロッパ人たちと接触するようになってからは、Kaw 族は、世襲的な酋長の地位を受け入れるようになりました。Kaw 族の人たちは、大きくて円形の木枠でできた家を建てていました。そうした家は、編まれたマットや、ときに、土で覆われていました。こうした家には、5 から 6 家族の者たちが一緒に住み、この家の直径は　30～60 フィートほどもありました。バッファローがトウモロコシ、豆、カボチャ、そして、野生のジャガイモなどともに、Kaw 族の主食料でした。女達が農業と家事の責任を持ち、一方、男たちは狩猟と、村を守る役割を果たしていました。1825 年に入植者たちが侵入してきて、Kaw 族は、彼等のミズーリの土地を譲渡し、カンザス州に移りました。当初は、彼等は、州の中心部で生活していましたが、しかし、そこに定着する前に、再度、1873 年にインディアンの強制居住区(オクラホマ州) に移住しました。Kaw 族/Kansas 族は、もはや、カンザス州には居住していませんが、州の名前が彼等にちなんでつけられているのは明白です。**部族旗について:**　馬にまたがった二人の男が Kaw 族の旗に描かれています。一人の戦士が、導きとなる風を呼び起こすかのように手を掲げています。Kaw 族の別名は“風の人々”と言います。



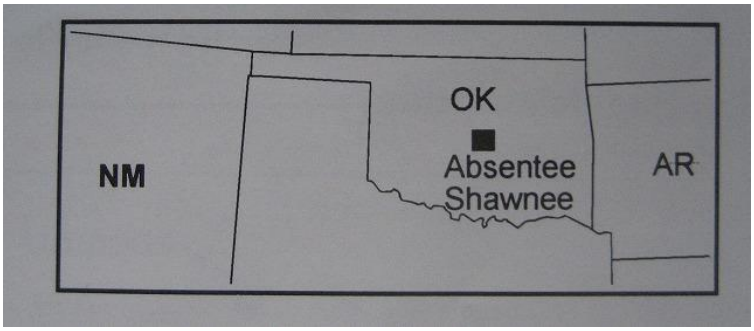
Bishop Paiute

Paiute 族は、現在のアリゾナ、ネバダ、そして、カルフォルニアあたりを放浪していた多くの集団でした。こうした集団は、一般的には、最も年寄の、そして、もっとも有能な男により率いられたたくさんの家族から構成されていました。こうした部族のなかから、二つのより大きな集団が生まれてきました：つなり、北と南の Paiute 族です。通常、Paiute 族の家は、洞穴、木々で覆われてもの、あるいは、円錐形の枠組みの家でした。彼等は、狩猟とわずかながらの農業を営んでいました。穀物には、トウモロコシ、カボチャ、そして、灌漑による野生の植物などがありました。



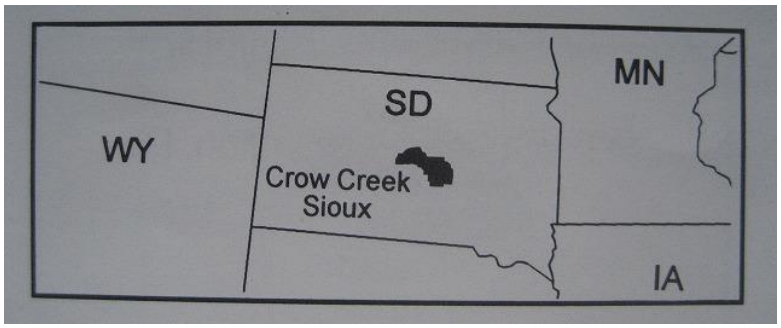
パインナッツ、ユッカ、ナツメヤシの実、ナッツ、そして、ベリーなどが彼等の食料倉庫に貯められていました。Paiute 族は、どうしても馬を手に入れることができず、そのため、彼等は周りの多くの部族のように、バッファローの狩りに依存する生活スタイルに変えることができませんでした。彼等の儀式に依存する生活は、Paiute 族の人々にとってはとても重要なことでした。ゴーストダンスを思い描いた Wovoka、は Paiute 族の男でした。ゴーストダンスは、1800 年代の中ごろ、夢で彼のなかに浮かんできたものですが、彼は、もし、原住民アメリカ人が至るところでこのダンスを踊るなら、白人たちはこの国を去りヨーロッパに戻るだろうと信じました。Wovoka の空想から生まれたこの宗教は遠く広まり、ミシシッピー川の東岸に住んで居る人たちの心さえもとらえました。Paiute 族の重要なこのほかの儀式には、サークルダンスというものや、若い女性の成熟を祝う儀式などがあります。**部族旗について：** Bishop Paiute 族の旗の背景には、二つの顔が山の上に重ね合わされています。五つの星とともに羽が示されています。

Absentee Shawnee



1600 年代の中ごろ、Shawnee 族の人々は、今日のテネシー州にある Cumberland River 渓谷に住んで居ました。それ以前は、彼等はもっと北の地域まで放浪していた遊牧の民と考えられています。Shawnee 族の酋長の Tecumseh（ 1768—1813 ）、彼の兄弟、そして、同盟を結んでいた部族はオハイオ川渓谷へと住居を移すことに共同して抵抗していました。度重なる戦いのあと、Tecumseh が亡くなり、Shawnee 族は小さな集団に分裂し、西に移動していきました。ある者たちはオクラホマ州に移り住み、他の者たちは Cherokee 族と一緒になりました。**部族旗について：** 月は、神が創造したたくさんの者の一つを表しています。肖像は、Shawnee 族の有名な酋長 Tecumseh です。羽は二人の偉大なる戦士、Tecumseh と彼の兄弟の “預言者” を表しています。“LI-SI-WI-NI-WNI” と言う言葉は “Shawnee 族の間で” と言う意味で、これは、テネシー州の Thunderbird 湖で再興した部族の共同体の名前でもあります。組み合わさった二つの星は、イギリス軍のなかにおける Brigadier 将軍の Tecumseh の階級を象徴しています。

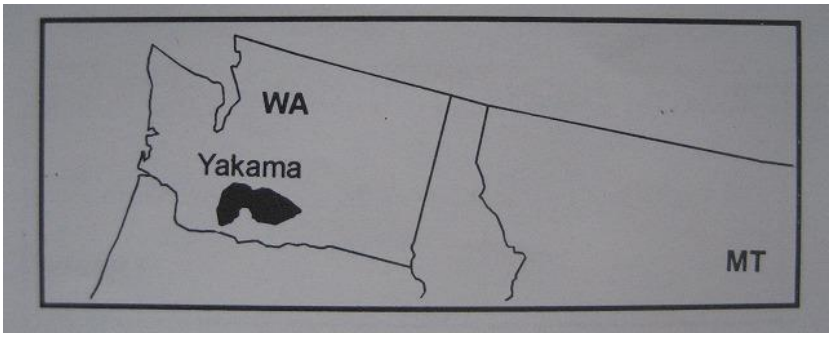
Cow Creek Sioux



Sioux 族は、Dakota 族とも知られ、七つの政治的な分派：Mdewakanton 族, Sisseton 族, Wahoeton 族， whapekute 族，Yanton 族，Yanktonai 族、そして、 Teton 族からなっています。もともとは、彼等はオハイオ渓谷から北に移住し、五大湖地域に入って来たものです。最終的には彼等は、周りの部族の圧力に押され、バッファローを追って西に移動してゆきました。馬が入ってきて、バッファローの狩猟をすることが Sioux 族を支えるもっとも重要な手段となり、彼等の生活のスタイルが完全に変わってしまいました。基本的には、彼等は定住をしている森林部族から大平原を放浪する部族にと変わってしまいました。最終的には、Sioux 族は、ワイオミング州、モンタナ州、ミネソタ州、ウィスコンシン州、並びに、サウス・ダコタ州に定着しました。Cow Creek Sioux 部族は 1868 年に認められ、サウス・ダコタの Fort Thompson に住むことになりました。**部族旗について：** ティピーの円と 1868 年という年が Crow Creek Sioux 族の旗に描かれています。中心の辺りには、“Kahmi Tanka”（ 偉大なる湾曲), “Kangi Okute ”

（Crow Creek）、並びに、“Cunkicske”（Fort Thompson）という文字が書かれています。

Yakima



Yakima 族は、もともとはワシントン州の砂漠帯を放浪する遊牧部族でした。漁業が、ひとびとと鮭、鱒、そして、チョウザメなどが彼等の好みとする主産物をもたらしました。Yakama は、もりとか、釣り針 、網、そして、魚の仕掛けなどを作るすぐれた技能を持っていました。漁業のかたわら、彼等は狩猟もし、また、玉ネゴ、ドングリ、さらには、ハシバミの実なども集めて生活していました。彼等の初期の住居は、マットや土で覆われた、半―地下の住居でした。こうした住居は、Yakima 族がバッファローの狩りをするようになると、だんだん、ティピーにとってかわられました。彼等の歴史をみてみると、Yakima 族は、くりぬきカヌー、掘りぬいたボール、バスケット、そして、革製品などの工芸品の生産者でした 。**部族旗について：**　背景には、Mount Adams が描かれています。川は、Yakima の人たちが川に依存していたことを表しています。14 の星は、彼等のなかで選ばれた彼等の指導者を表しています。14 枚の羽は、それぞれの指導者に率いられた Yakima の部族を象徴しています。太陽の光線は、父なる太陽を表しています。ワシの上にある星は、最も南に輝いている星です。この星が見えなくなると、世の中は終わると言われています。飛んでいる黄金のワシは、ワシの家族の一番上の兄を表現しています。

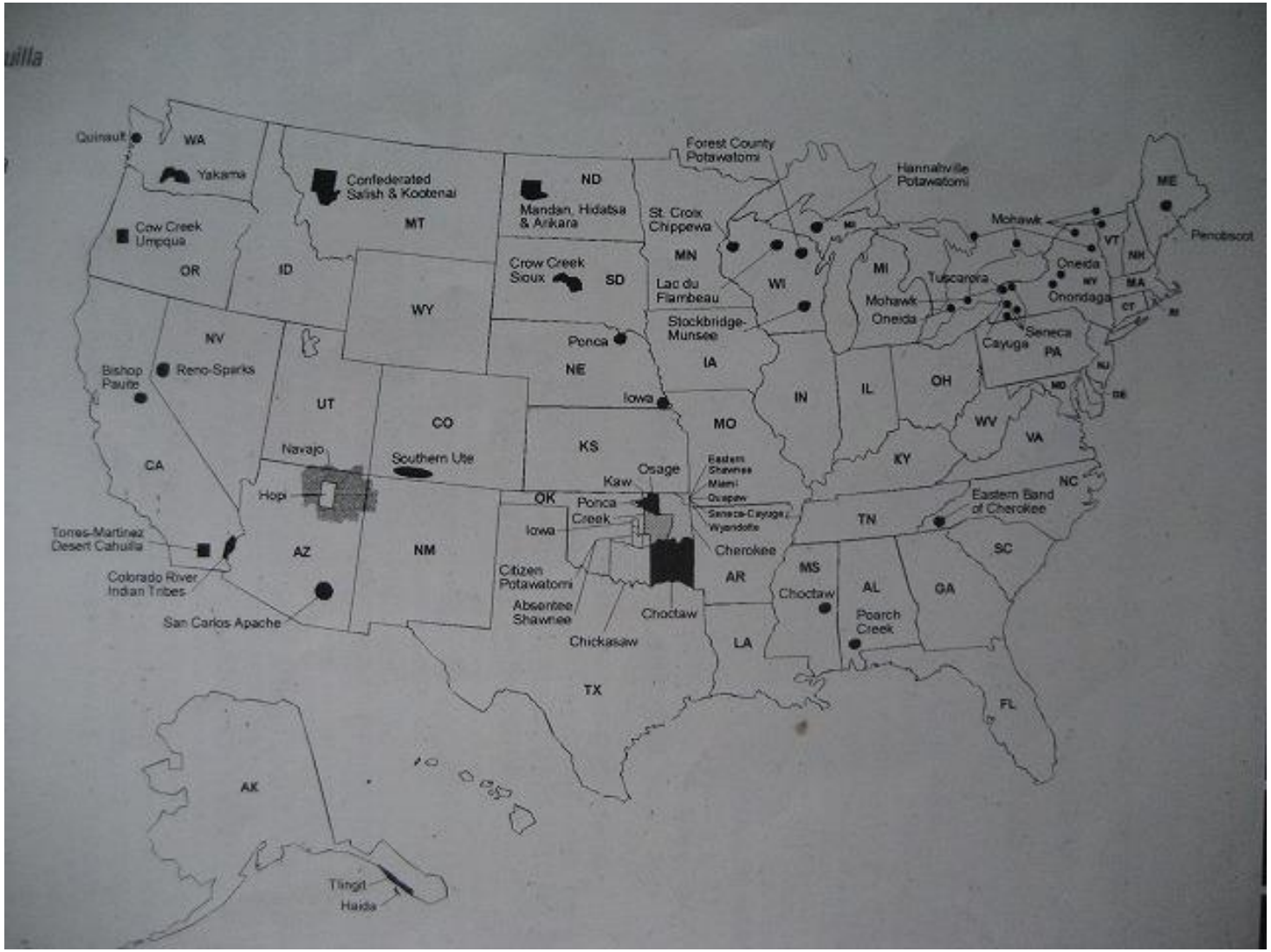
あとがき

私がアメリカに渡ったのは、ちょうど、「Lewis & Clark の旅」の 200 周年記念の行事がなされている時でした。本屋さんには、この旅の本がずらりと並んでいました。それまで、この事実を知りませんでしたのでこれには非常に強い印象を受けました。そして、この話を知るにつけ、アメリカインディアンのことに非常に興味が湧き、以来、休みには必ず、彼等の保護居留区に足を運び、原住民アメリカ人のさまざまな文化を知ることができました。そんな旅のなかで、たまたま訪れたカンザス州のウィチタにあるインディアンセンターミュージアムでこの小冊子を手に入れました。ここには、沢山の部族の誇りと伝統と、そして、プライドが紹介されていました。現在に伝わる、原住民アメリカ人の意気込みを知ってもらえれば幸いです。

2011.10.14

Tribes represented in this booklet listed alphabetically

San Carlos Apache
Torres-Martinez Desert Band
of Cahuilla
Eastern Band of Cherokee
Cherokee of Oklahoma]Chickasaw
Lac du Flambeau Band of Chippewa
St. Croix Band of Chippewa
Choctaw Great Plains
Mississippi band of Choctaw
Colorado River Indian Tribes
Muscogee Creek
Poarch Band of Creek
Salish and Koottenai
of the Flathead Nation
Iowa of Kansas and Nebraska
Kaw(Kansa)
Iroquois Confederacy
Mandan, Hidatsa and Arikara
The Three Affiliated Tribes
Miami Tribe of Oklahoma
Stockbridge-Munsee Band
of Mohican
Navajo
Oneida
Osage
Bishop Paiute
Penobscot
Ponca Tribe of Nebraska
Ponca Tribe of Oklahoma
Citizen Potawatomi
Forest County Potawatomi
Hannahville Potawatomi
Quapaw (Q-GAH-PAH)
Quinault
Reno-Sparks Indian Colony
¥absentee Shawnee
Eastern Shawnee
Cow Creek Sioux
Tlingit and Haida



NATIVE INDIAN TRIBES
Blackfoot
Assiniboine
Cree
Ojibwa
Algonquin
Crow
Sioux
Paiute
Shoshone
Cheyenne
Pawnee
Ute
Navajo
Kiowa
Osage
Shawnee
Cherokee
Apache
Comanche
Choctaw
Apache
Seminole